

口腔診断学・有病者歯科学

責任者名：岡田 明子

学期：後期

対象学年：4年

授業形式等：講義

◆担当教員

岡田 明子(口腔診断学 准教授)

今村 佳樹(口腔診断学 教授)

米原 啓之(口腔外科学II 教授)

大井 良之(歯科麻酔学 教授)

篠崎 貴弘(口腔診断学 専任講師)

北山 稔恭(歯科麻酔学 助教)

◆一般目標 (GIO)

顎口腔領域の疾患を診るために必要な局所的小および全身的な疾患の基本知識を理解する。

◆到達目標 (SBO s)

- 1) 顎口腔領域と関連のある全身疾患を具体的に述べることができる。
- 2) 顎口腔領域疾患に関連する局所的小および全身的な疾患の病態、症状、診断法を述べることができる。
- 3) 全身疾患の病態の理解に基づいた歯科診療を具体的に説明することができる。

◆評価方法

定期試験 (50%) および平常試験 (50%) で評価する。講義の欠席は、定期試験の成績から減点とする。定期試験や平常試験のフィードバックは講義内の解説により行い、各講義後にもメールによる質疑応答形式で行う。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
今村 佳樹	水曜日 17:00~18:00 口腔診断科教授室	imamura.yoshiki@nihon-u.ac.jp 03-3219-8191	
米原 啓之	水曜日 17:00~18:00 口腔外科学第II講座教授室	yonehara.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp 03-3219-8093	
大井 良之	水曜日 17:00~18:00 歯科麻酔科教授室	oi.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp 03-3219-8130	
岡田 明子	水曜日 17:00~18:00 口腔診断科医局	okada.akiko1@nihon-u.ac.jp 03-3219-8099	
篠崎 貴弘	水曜日 17:00~18:00	shinozaki.takahiro@nihon-u.ac.jp	

	口腔診断科医局	03-3219-8099	
北山 稔恭	水曜日 17:00～18:00 歯科麻酔科医局	kitayama.toshiyasu@nihon-u.ac.jp 03-3219-8140	

◆授業の方法

教科書 1~4 および講義時に配布するプリントをもとに講義形式で行う。顎口腔領域に関連する全身疾患の病態や診断法を理解し、歯科に関連する医学領域の基礎知識を確実にする。

【実務経験】今村佳樹：口腔診断科およびペインクリニック科での臨床経験をもとに、顎口腔領域に関連する全身疾患の総括的な診断法や治療法についてわかりやすく説明したいと思います。

【実務経験】大井良之：医師の立場から顎口腔領域に関連する全身疾患の理解につながる講義を展開し、本教科で学ぶ内容が歯科臨床現場でどのように活かされるかについて学ぶ場を提供したいと思います。

【実務経験】米原啓之：医師の立場から臨床経験などの話も交えながら、顎口腔領域に関連する全身疾患の理解につながる講義を展開し、これら全身疾患が実際の歯科臨床にどのように関連しているのかを学ぶ場を提供したいと考えております。

【実務経験】岡田明子：口腔診断科およびペインクリニック科での臨床経験などの話も交えながら、本教科で学ぶ内容の理解と実際の歯科臨床との関連性について学んでいただき、将来歯科臨床の現場で活用していける知識を得ていただきます。

【実務経験】篠崎貴弘：口腔診断科および心療歯科での臨床経験をもとに、顎口腔領域に出現する様々な疾患についてわかりやすく説明したいと思います。

【実務経験】北山稔恭：歯科麻酔医の立場から、本教科で学ぶ内容が歯科臨床現場においてどのように活かされるかについて学ぶ場を提供したいと思います。

◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

講義内容が多岐にわたるので、自主学修を十分に行うこと。各講義で資料のプリントを配布するので参考にと。

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
プリントまたは pdf ファイル			講義 (web)で配布	
教科書 1	全身的偶発症とリスクマネジメントー高齢者歯科診療のストラテジー	大渡凡人	医歯薬出版	2012
教科書 2	歯科麻酔学 第 8 版	金子譲	医歯薬出版	2019
教科書 3	歯科麻酔・生体管理学 第 2 版	吉田 和子	学建書院	2016

教科書 4	口腔顔面痛の診断と治療ガイドブック 第2版	日本口腔顔面痛学会	医歯薬出版	2016

◆DP・CP

[DP-3]

コンピテンス：論理的・批判的思考力

コンピテンシー：多岐にわたる知識や情報を基に、論理的な思考や批判的な思考ができる。

[DP-4]

コンピテンス：問題発見・解決力

コンピテンシー：自ら問題を発見し、その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

[CP-3]

幅広い教養と歯科医療に必要な体系的な知識を基に、論理的・批判的思考力と総合的な判断能力を育成する。

[CP-4]

歯科医学の基礎知識を体系的に習得し、臨床的な視点で問題を解決する力を養成する。

◆準備学習(予習・復習)

関連する教科のこれまでに学修した内容を復習しておくこと。教科書の指定のあるものは講義内容を予習し、分からない事項を明確にするとともに理解しておくこと。

◆準備学習時間

授業時間相当（50分）を充てて予習及び復習を行うこと。

◆全学年を通しての関連教科

炎症と臨床検査（第3学年後期）

口腔外科手術時の患者管理（第4学年前期）

口腔顔面痛学（第6学年前期）

隣接医学Ⅰ 内科学A（第5学年前期）、内科学B（第6学年前期）

◆予定表

回	クラス	月日	時限	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		8.30	5	【遠隔】 1) 血液疾患 (1) 貧血 (資料配布) (教2) pp.384	・貧血の定義と発症原因について述べることができる。 ・貧血の分類を説明できる。 ・各貧血の臨床検査項目、確定診断方法、臨床症状を説明できる。	岡田 明子	E-2-4) -(10) 口腔・顎顔面領域に症状を表す疾患

2		9.6	5	<p>【遠隔】</p> <p>1) 血液疾患 (2) 出血性素因 (資料配布) (教1) pp.297~299</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出血性素因の分類について述べることができる。 ・出血性素因について臨床検査, 診断, 臨床症状を説明できる。 ・凝固異常について説明できる。 	篠崎 貴弘	E-2-4) -(10) 口腔・顎顔面領域に症状を表す疾患
3		9.13	5	<p>【遠隔】</p> <p>1) 血液疾患 (3) 白血病 (資料配布) (教1) pp.300~303</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・白血病の特徴と必須検査項目, 確定診断, 臨床症状を述べることができる。 	篠崎 貴弘	E-2-4) -(10) 口腔・顎顔面領域に症状を表す疾患
4		9.27	5	<p>【遠隔】</p> <p>2) 膠原病・内分泌疾患 (1) シェーグレン症候群・関節リウマチ (資料配布) (教3) pp.57~58</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・膠原病であるシェーグレン症候群と関節リウマチの特徴と検査項目, 確定診断, 臨床症状を述べることができる。 ・シェーグレン症候群と関節リウマチ患者に対する歯科診療において注意すべき事項を説明できる。 	岡田 明子	E-2-4) -(10) 口腔・顎顔面領域に症状を表す疾患
5		10.11	5	<p>【遠隔】</p> <p>3) 薬物依存症・緩和ケア (資料配布) (教4) pp.239~243</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科診療に遭遇する薬物依存症について病態や症状を説明できる。 ・薬物依存症および緩和ケア患者に対する歯科診療において注意すべき事項を説明できる。 	米原 啓之	E-2-4) -(10) 口腔・顎顔面領域に症状を表す疾患
6		10.18	5	<p>【遠隔】</p> <p>4) 腎疾患 (透析・ネフローゼ・糖尿病腎症) (資料配布)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・腎臓の生理を述べることができる。 ・腎疾患とその原因を挙げることができる。 ・腎不全について説明できる。 ・治療法を理解して説明できる。 	北山 稔恭 大井 良之	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
7		10.25	5	<p>【遠隔】</p> <p>5) 消化器疾患 (1) 上部消化管疾患 (資料配布)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食道・胃・十二指腸などの上部消化管疾患の病態や症状を説明できる。 ・上部消化管疾患に対する歯科治療において注意すべき事項を説明でき 	米原 啓之	E-2-4) -(10) 口腔・顎顔面領域に症状を表す疾患

					る。		
8		11.1	5	【遠隔】 5) 消化器疾患 (2) 下部消化管疾患 (資料配布)	・小腸や大腸などの下部消化管疾患の病態や症状を説明できる。 ・下部消化管疾患に対する歯科治療において注意すべき事項を説明できる。	米原 啓之	E-2-4) -(10) 口腔・顎顔面領域に症状を表す疾患
9		11.8	5	【遠隔】 6) 肝胆膵疾患 (資料配布)	・歯科診療に影響する肝胆膵疾患の病態や症状を説明できる。 ・肝胆膵疾患患者に対する歯科診療において注意すべき事項を説明できる。	米原 啓之	E-2-4) -(10) 口腔・顎顔面領域に症状を表す疾患
10		11.15	5	【遠隔】 7) 脂質代謝異常 (資料配布)	・歯科診療に影響する脂質代謝異常について病態や症状を説明できる。 ・脂質代謝異常患者に対する歯科診療において注意すべき事項を説明できる。	米原 啓之	E-2-4) -(10) 口腔・顎顔面領域に症状を表す疾患
11		11.20	3	【対面】 平常試験(対面形式) ※土曜日(11/20)3 限目	第1回から第10回までの理解度を確認するため平常試験を行う。	岡田 明子	
12		11.29	5	【遠隔】 8) 有病者歯科学の 歯科的観点のまとめ 平常試験の解説	・歯科的観点に基づいた有病者歯科学を説明できる。 ・平常試験の解説によりフィードバックを行い、授業内容の理解度を深め、習熟を図る。	岡田 明子	E-2-4) -(10) 口腔・顎顔面領域に症状を表す疾患
13		12.6	5	【遠隔】 9) 精神・神経疾患 (1) 脳血管障害 (資料配布) (教1) pp.190~205	・脳血管障害について説明ができる。 ・脳血管障害患者に対する歯科診療において注意すべき事項を説明できる。	今村 佳樹	E-2-4) -(9) 神経性疾患
14		12.10	5	【遠隔】 9) 精神・神経疾患 (2) 高次脳機能障害・認知症	・高次脳機能障害が説明できる。 ・認知症について説明ができる。 ・高次脳機能障害・認知症の歯科治療時の注意点を説明できる。	今村 佳樹	E-2-4) -(9) 神経性疾患

				<p>(資料配布) (教1) pp.205~212 ※金曜日(12/10)</p>	<p>・認知症の治療薬と歯科治療の関係を述べることができる。</p>		
15		12.13	1	<p>【遠隔】 9)精神・神経疾患 (3)運動障害を伴う疾患 てんかん・パーキンソン病・ジストニア・重症筋無力症 (資料配布) (教1) pp.213~220 (教4) pp.233~238 授業アンケート</p>	<p>・四肢, 頭頸部の運動の評価ができる。 ・錐体外路症状を呈する疾患の特徴を説明できる。 ・パーキンソン病の病態を説明できる。 ・嚥下障害を呈する病態を説明できる。 ・ジストニア, ジスキネジアの口腔症状を説明できる。 ・てんかんの特徴を説明できる。 ・重症筋無力症の病因を説明できる。</p>	今村 佳樹	E-2-4) -(9)神経性疾患

